



東京の会通信

No.318

2025年1月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

音楽と想いを紡ぐピアノ三重奏 チャリティコンサート響(Hibiki)

2024年11月17日、東京の会の秋の恒例行事「ピアノ三重奏チャリティコンサート」が開催されました。コンサート名「響(Hibiki)」の由来でもある求道会館での開催はコロナ禍の中断を挟んで今回で5回目となります。用意した席数の満席に近い104名のお客様にご来場いただき、好評のうちに終了しました。

秋のチャリティコンサート

ヴァイオリニスト 三戸素子

11月は慢性骨髄性白血病で亡くなった親友のピアニスト・金井いづみさんの命日の月、そして恒例のチャリティコンサートの季節です。16日の千葉に引き続き、翌17日(日)に東京の会のチャリティコンサートがありました。場所は文京区の本郷にある求道会館です。

この求道会館は明治時代に建てられた独特の建物で、都の有形文化財になっています。仏教のカリスマ僧侶によって建てられ、明治の西洋文化が入ってきた時代の気運が今に伝えられています。外見は教会堂なのですが、中のご本尊は観音さまです。2階の明かりと窓にあるステンドグラスはけっして豪華ではないのですが、その枝をひろげた菩提樹のモチーフは、木の下でお釈迦様と一緒に私たちも悟りがひらけるかのように、ここに集っている気にさせてくれます。

もちろん木造の礼拝堂の響きも大好きです。グランドピアノは良い時代に作られたヤマハで、この空間と良くあっており、私たちヴァイオリンとチェロの小さなささやきも柔かく受け止めて、本当に特別な響きです。普段は見学日だけ中に入れますが、見学だけではこんな素敵な響きがするとはきっとわからないで



しょう。

ここ本郷の界隈は、戦争の爆撃をまぬがれた地域で、いくつかひっそりと古い建物が残っています。こうして稀少な歴史的建造物に触れる機会があると、あらためて当時の人々の思いや願いが詰まった文化財の、いかに多くが戦争で失われてしまったかを思い知らされます。

プログラムは千葉に引き続き、前半がヴァイオリン・チェロ・ピアノによる小品、後半がピアノ三重奏曲で、今年はドヴォルザークの名曲「ドゥムキー」でした。メランコリックで故郷や愛する人々を想わせるこの曲は、求道会館にぴったりだったと思います。

このコンサートが始まってもう30年余、その間骨髄バンクによって2万件以上の骨髄移植が行われたそうです。コンサートでは患者さんとドナー経験者によるシンポジウムも行われました。2万人の患者さんと2万人のドナーさんが命のやりとりをしたんだなあ、と思うと感無量です。コロナ禍以来初めて開放した2階席にも、お客様がたくさん入って下さっていました。100人以上来られたという今年のチャリティコンサート、若木さんが広報を拡大して下さいたり、福永さんがコンサートのチラシの別バージョンで、配りや



すいおしゃれな名刺サイズを工夫して作って下さったりのおかげも大きかったことでしょう。ボランティアのみなさんのいつもの大好きな顔、そして頼もしいニューフェイスの方々の顔も拝見できて、私たちも仲間なのだ、と実感します。お金で買えない貴重な思いがいっぱい詰まった一日に、チェロの小澤、ピアノの高田さんと一緒に感謝の思いが込みあげました。

来年もまた、素晴らしいコンサートになりますように。

2階席で楽しんだそれぞれの曲

去る11月17日、東京の文京区にある求道会館で、ピアノ三重奏チャリティコンサート「響 (Hibiki)」が行われました。三戸素子さん (ヴァイオリン)、小澤洋介さん (チェロ)、高田匡隆さん (ピアノ) の3人による演奏です。

今回は、コロナ禍以降閉鎖されていた2階を開放してのコンサートでした。1階とはまた違った響きを堪能された方もいらっしやったと思います。

演奏は、1曲目の「クライスラー コレルリの主題による変奏曲」から、始まりました。ヴァイオリンとピアノによる演奏で、音が楽しそうに飛び跳ねている感じが、とても良かったです。ヴィヴァルトが細かく、優美な曲ですね。

2曲目は、「チャイコフスキー メロディ 変ホ長調 作品42-3」で、ヴァイオリンとピアノによる美しいメロディを奏でて頂き、とても心地よかったです。3曲目は、「ショパン マズルカ 作品17」で、ピアノによる演奏です。もの哀しい感じが、良かったです。

後半の「ドヴォルザーク ロンド ト短調 作品94」は、チェロから始まる曲。耽美的で荘厳な感じがしました。最後の「ドヴォルザーク ピアノ三重奏曲第4番 短調『ドゥムキー』作品90」。3人の個性がぶつかり合っ

て奏でる曲に、圧倒されました。

アンコールの「ジ・エンターティナー」は、明るく楽しく盛り上がる曲で、今回のコンサートを締めるのに、ぴったりでした。

私個人は久しぶりに、2階席で楽しみました。次回もまた是非、三重奏を楽しみたいです。 (笠原誠)

息の合った演奏に感動しました

今回のコンサートは求道会館の1階2階を使って、104名のお客様をお迎えして行われました。これまで毎年会場探しや、演奏者としてもピアニストをいつも依頼したりして大変なこともありましたが、求道会館になり、また演奏者3人に固定してからはチームワークにも磨きが掛かるという素人の私にもわかるくらい今回の演奏は感動的でした。来年が楽しみな感じになりました。 (竹崎恵子)

心と音楽が奏でる支援のメロディー

先日、骨髄バンクを支援する東京の会が主催するク



ラシックコンサート「響」に参加し、心温まる時間を過ごしました。演奏の後、チェリストの小澤さんが「音楽をするには仲間が大切だ」と語っていたことが印象的でした。

その言葉は、絵画の世界でのゴッホとゴーギャンの関係を思い起こさせます。アルルと言う地で2人で創作に励んだ時期があったからこそ、後にその名が広く知られるようになったと言われています。

骨髄バンクを支援する東京の会もまた、骨髄バンクの理念に共感し、共に推進する「仲間」が集まっている場です。ドナーを待つ患者の方々は孤独に感じることもあるかもしれませんが、全国には同じ状況の仲間がいること、我々のように応援を惜しまない仲間がいることを忘れないでほしいと思います。

このコンサートを通じて、支援の輪がさらに広がることを願っています。音楽が響き合うように、心も響き合い、より多くの人々が救われる社会が実現することを切に祈っています。 (宮本大志)

音楽がつなぐ求道会館チャリティーコンサート

コンサート中止やオンライン配信を乗り越えて再開されたコンサートも今年で3年、恒例のチャリティーコンサートに戻りつつあります。今年は求道会館の2階席も解放され、人数制限もなく多くの方々が素敵な演奏に酔いしれました。

私は初めてその2階席で演奏を鑑賞しました。目の前での演奏も心震えますが、2階席は会場全体を見渡すことが出来、三戸さん、小澤さん、高田さんの体や指先の激しい動きもよく見えました。その指先から奏でられるメロディーは心地よいだけではなく、楽しさも感じられました。毎回、生演奏のすばらしさに触れることのできる幸せに心より感謝いたします。

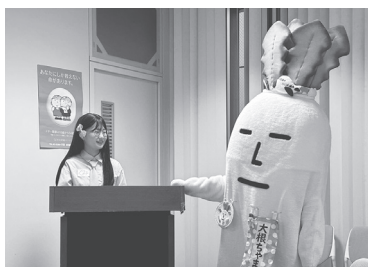
コンサート終了後は昨年と同様、懇親会にも参加させていただき、演奏者の皆さまを囲って、東京の会の皆さまとのとても楽しい時間を過ごしました。また若い方々の骨髄バンクへの熱い思いに触れ、感銘いたしました。このような贅沢なひと時が過ごせる状況が今後も続いてくれることを心より祈っています。

コンサート開催にあたり、関係者の皆さま、本当にありがとうございました。 (名川一史)

大根ちゃまと考える未来、 若者に届ける献血と骨髄バンクのメッセージ

2024年10月19日、こくみん共済coop東京会館にて、骨髄バンクドナー登録説明会を実施し、先立って「大根ちゃまと考えよう-献血のこと骨髄バンクのこと」座談会を行いました。大学生を中心とした世代（10代後半～20代前半）が献血と骨髄バンク登録への当事者意識を高め、日本赤十字社・日本骨髄バンクが目的とする若年層獲得のためのイベントです。

スペシャルゲストの大田区非公認キャラクター「大根ちゃま」はお喋り上手で優しさに溢れていて、大田区内での献血・骨髄バンク広報活動に協力していただいています。大根ちゃまの進行で、大学生4名を含む



12名の参加者と10名の東京の会メンバーで、動画「Think 献血」「つなげプロジェクトオレンジ」を視聴して、骨髄移植経

験者お2人から体験談を話していただき、意見交換をしました。

献血と骨髄バンクを1人でも多くの人にどう伝えるか、どうやったら1人でも多くの人が自分事として行動するか、特に若者世代の方々がアクションを起こすために発信できることは何か、考えて聞いて話して、和やかな座談会となりました。当日のアイデアのうち、一部を紹介します！

- 遠い存在でなく、何かな、ってまず見てもらいたい。
- 小中学校で語りべ会をするのはどうか。
- 子供達が手にとれる絵本があれば。お菓子の絵本、災害時の絵本他、参考になりそう。
- ボランティアのきっかけは「人」、出会いが大切。
- 血液センターの見学で実感する。
- 高校や大学で献血できるのが良い。わざわざ、でなく、何かのついで。

今回、皆様のおかげで、半年がかりで初の企画が実現できました！ご参加の皆様、本当にありがとうございました！（園山千夏）

大田区六郷地域力推進センターでの活動レポート

11月24日、大田区六郷地域力推進センターでの献血実施に合わせて、雑色駅前広場で、献血と骨髄バンクの広報活動を行いました。ボランティアとして参加された9名のうち2名より、感想をいただきました！

献血は一度、大学在学中に行ったことがありましたが、今回は実施ボランティアとして献血活動に参加しました。そのため、献血に携わる様々な方と触れ合うことができ、献血活動を行うことの大変さも感じることができました。

また、骨髄バンクの制度についても今回初めて知ることになりました。ボランティア活動をしながら、このような医療ボランティア活動を知る機会があることも大切なのだと思いました。

献血や骨髄バンクの登録などの普及には若い世代の参加の減少など様々な壁があると思いますが、なにかのきっかけがこうした活動の力になると信じたいです。（永田李野）

インターネットでこの献血のボランティアを見つけたので参加しました。どのようにすると効果的にアピールできるか考えながら活動するのが楽しかったです。立っている場所によっては少し寒かったですが、声をかけてくださる方がいると達成感があり、楽しさを感じました。午前中2時間だけで多くの方に献血していただいたとわかり、充実感がありました。ただ、声掛けに対して振り向いてくれる方の年齢層が高いと感じました。もっと若い人にも献血の良さを知ってもらえたら良いと思いました。（加藤知樹）

3月会報発送 「おりおり」のお知らせ

日時：3月2日（日）14時より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※5月「おりおり」予定 5月4日（日）14時より

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、なるべくマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

東京雪祭2024でドナー登録100名を達成

11月9日（土）と10日（日）の2日間、代々木公園イベント会場で「東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2024」が開催され、東京・神奈川・千葉・埼玉から2日間でのべ20名の説明員がドナー登録説明・受付を行いました。

その結果、2日間で献血463名・ドナー登録100名という大きな成果を上げることができました。以下、参加された方からの報告です。皆さんお疲れ様でした。

献血と骨髄ドナー登録、ウィンウィンの現場を目指して

6年前に説明員に復帰して以来、東京雪祭会場でのドナー登録会への出勤もずいぶん回を重ねました。献血併行型ドナー登録会ではいつも感じるのですが、赤十字血液センターの皆様が、2日連続の開催なのに設営を毎日一からやり直して、手際よく作業を進めておられるありさまには、感心します。長年かけて試行錯誤の末に築かれた手順があるのでしょうか、システムチェックという言葉を地で行っている感じがします。

その献血の「受付→問診→検査用採血→本採血」という流れの中に生じる待ち時間を有効活用し、献血者が骨髄バンクの説明を聴いても聴かなくても全体の時間は変わらず、献血と骨髄ドナー登録とがウィンウィンの関係になるようにもってゆくのが理想でしょう。そのためには「声がけ」のチャンスを見逃さないと同時に、無理な「声がけ」は控えるという阿吽の呼吸を身に着けることが必要で、毎日が修行だなあと感じています。

（三土明笑）

スノーバンクの成功と東京の会への期待

今年でスノーバンクへの参加は3回目となりました。結果的には2日で100名の骨髄バンクの登録をいただきこ3年間では一番良かったと思います。

しかし今後の課題は沢山あると思います。いつもながら東京の会に加えて埼玉の会、千葉の会、神奈川の会の協力で今回も何とかなりましたが、やはり東京開催なので東京の会のメンバーで出来るようにしたいと思います。そのためには他地区の会同様に毎月の登録会の数をもっと増やし、また参加出来る人を育成しなくてはならないと強く思いました。

来年は多くの東京の会のメンバーで臨みたいと思います。

（泉孝之）

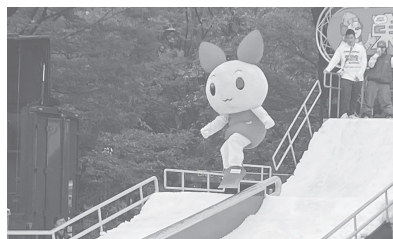
3回目の説明員経験で感じた意義

皆様初めまして、高石と申します。

2023年秋頃、何か骨髄バンクのボランティアは出来ないかと思い、

2024年年初にコンタクトを開始しました。

今回のスノーバンクは、説明員になっ



て3度目、それまで実地研修含め有楽町献血ルームのみの経験でしたので、他の開催場所への参加の機会、また本イベントのように大規模な会は全然違う、と事前に聞いていたので非常に楽しみでもありました。

当日初めてお会いした説明員の方から、スノーバンク代表も骨髄バンクを介した骨髄移植経験者である旨を聞きました。また、なかなか型のフルマッチしたドナーが見つからない、苦しい闘病生活の時期を送ったと場内の掲示で読み、改めて説明員としての意義を感じ、移植希望者が迅速に提供を受けられる環境作りに微力ながらも本活動が続けていけたらと思っております。

引き続き、よろしくお願い致します。（高石雅仁）

若者がつなぐ命のリレー

11月9日10日両日、代々木公園で開催されたスノーバンク・東京雪祭2024。生憎の曇り空でしたが比較的暖かい中で東京・神奈川・埼玉・千葉の各会が協力して献血並行型のドナー登録会を行いました。

個人的にはもう10年ぐらい前からのお手伝いになります。行列に並んでまで続々と献血に来てくれる若者たち。新規登録者も2日間で100人に上りました。驚くのは既登録者がそれを上回る103人もおられたことで、過去このイベントでドナー登録し、その後も毎年献血に来てくれる方々と推察しますが、本当に本当にありがたいことです。

スノーバンクで競うルールスライドは時間にして僅か1～2秒。自分はフィギュアスケートとか体操とか、芸術点を争うスポーツにまるで音痴ですが、一瞬の技を披露し、楽しみながら参加しているボーダーたちを見ているうちに自分の中でも興味が湧いてきました。赤十字の献血推進キャラクター・けんけつちゃんも挑戦。自らやってみたい冒険心もありますが、骨折するのが関の山なのでやめておきます。（松阪一紀）

今年も移植患者の多くの皆さんと楽しく走りました！

2024年10月14日（月祝）「2024グリーンリボンランニングフェスティバル」が開催されました。家族や仲間と一緒に！走って！遊んで！楽しめる！移植医療のシンボルである「グリーンリボン」を冠した今年で17回目のイベントです。臓器移植（骨髄移植も含む）を受けた方をはじめ、障がいのある方、ない方が共に参加し、移植という辛い治療を乗り越えた患者・患者家族が熱い感謝の思いを込めて、会場の駒沢オリンピック公園陸上競技場およびジョギングコースを、走る喜びを分かち合いながら周回します。

全国協議会では毎年ブースをお借りして、骨髄バンク普及啓発のためチラシやティッシュを配布します。また首都圏近隣のボランティア団体に呼び掛け、42.195kmのリレーマラソンにチームとして出場します。東京の会からは石崎保夫さんがランナーとして出走し、9名が「骨髄バンクを応援します」の黄色いタスキを掛け、タスキをつなぐリレーで完走し、昨年のタイムを上回る成績を収めました。

東京の会からボランティアとして、6名が全国協議会のブースで宣伝活動をし、また沿道でランナーを応援しました。参加した皆さんからの声をお届けします。

感謝と一体感をつなぐリレーマラソンの喜び

今年は日向ではまだ暑さを感じる好天のもと、フルマラソンのリレー部門だけでも100チーム以上の参加がありました。私は欠員の出た神奈川の会のリレーマラソンチームに混ぜてもらい、チームのために楽しく走ることができました。普段接点の無い神奈川の会の方とも情報交換できて親交も深まり、大変良い機会でした。

レース前には、ドナーへの感謝の気持ちをこめて風船を飛ばすバルーンセレモニーがあります。イベント参加者が手に手に持った色々とりどりのバルーンが手から離れて空高く昇って行く様子を、ランナーも応援者も揃って見上げ、皆で元気に走れる事に感謝しました。

毎回思うこととして、この大会で走っていると周回コース沿いで絶えず声をかけてくれるので、苦しい時もそれがとても嬉しいです。ボランティア、応援者、ランナーが一体感を持った大会で、結果を気にせず、楽しく走れるのが何より気持ちが良いです。

皆さん、来年はぜひ東京の会チームで参加しましょう！（石崎保夫）

駒沢の緑に想いを込めて、応援レポート

グリーンリボンマラソンの応援ボランティアとして東京の会から参加しました。今年は東京の会と神奈川の会との合同チームでの応援です。神奈川の会の皆さんとは、お名前を知っていてもお会いしてお話する機会がなかなかありませんでしたが、打ち上げまでご



一緒させていただき、楽しい時間を過ごす事ができました。

東京の会のボランティアメンバーは協議会のブース設置に合わせて朝早くからスタンバイし、レース前のランナーやその関係者に向けてチラシやティッシュを配って骨髄バンクをアピールしました。この大会の目的もあってか、興味をもってチラシを受け取ってくれる方が多かったように感じます。お昼近くになり、家族連れなど応援する人の往来が増えてきたので、来年は時間帯を変えて活動するのも良いかなと思いました。協議会のブースの隣では子供向けのアトラクションをやっていたため、たくさんのお子さんが集まっていましたが、帰りがけに声をかけるとこちらの資料にも興味を持って手に取ってくれていました。

毎年、駒沢公園の緑の中で10月の心地良い空気を吸いながら一日を過ごすステキなイベントです。また来年もたくさんメンバーと参加出来たら良いなと思いました。（石崎友子）

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和6年11月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	563,116	71,788	70,190
10-11月登録分	8,356	1,276	426
10-11月抹消数	4,234	560	—
実質登録増	4,122	716	—

患者とドナー登録・適合状況(11月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	985,430人
ドナー登録抹消者数(累計)	422,314人
HLA適合報告ドナー数(累計)	391,419人
実質登録患者実数(現在)	1,711人(国内1,160人)
HLA適合患者数(累計)	55,825人(患者累計数の79.5%)
非血縁移植実施数	29,179例(10-11月実施184例)

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2024.10.16 ~ 12.15)

奈良誓夫さん 10,000円／村山高さん 10,000円／匿名希望 20,000円／河村朝子さん 7,000円
中村修康さん 2,000円／大谷貴子さん 2,000円／新田恭平・雅子さん 4,000円／名川一史さん 3,000円
中谷哲郎・光子さん 10,000円／清水悦子さん 6,000円／福島竜二さん 2,000円／匿名希望 2,000円
匿名希望 2,000円／匿名希望 1,000円／佐藤淳子さん 7,000円／柴山洋久さん 6,000円
コンサート当日募金箱寄付 25,720円／松崎内科クリニック募金箱寄付 松崎道男さん 15,004円
東京港南マリナーロータリークラブ87,575円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

編集者 雑記



▼2024年は、正月1日に石川・能登半島地震発生という衝撃的なニュースで幕を開け、翌2日には羽田空港で日本航空機が炎上した映像に驚きました。今年はいったいどうなるのかと不安に思った方も多いのではないのでしょうか。実際振り返ってみるといろいろな出来事がありました。

▼自然災害では1月の能登半島地震に始まり、7月には秋田県・山形県で記録的豪雨が発生し、8月には宮崎県の日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震で初めて南海トラフ巨大地震臨時情報が出されました。そして台風被害も多く発生し、9月には能登半島豪雨で地震の被災地が再び被害を受けました。

▼経済面では、大幅な円安・ドル高、原材料費や人件費の上昇などにより物価が高騰し、毎月値上げのニュースが報じられました。一方で株価は過去最高値を更新し、企業収益も好調でしたが、一般の国民には縁のない話で、賃金は多少上がったものの物価高には追いつかず、生活は苦しくなったというのが実感でしょう。

▼政治面では、自民党の裏金問題が連日大きく報道され、国会では政治資金規正法の改正など政治と金の問題が再び焦点となりました。岸田内閣は総辞職し、そ

のあとを受けた石破内閣は発足直後に解散総選挙に打って出ましたが、与党の過半数割れという惨敗を喫しました。政権交代は免れたものの、与党は野党の協力なしには予算も法律も通せない状況となり、一方で野党もまとまっておらず政治情勢は混沌としています。▼海外では、ウクライナとガザ地区で終わりの見えない戦争が続いています。欧米各国は対ロシアと対イスラエルでダブルスタンダードになっており、国連を含めて誰も戦争を止められないまま、多くの人命が失われています。アメリカでは11月の大統領選挙でトランプ氏が再び咲き、2025年の国際情勢はどうなるのか、予測不能な状況です。

▼スポーツでは、パリオリンピック・パラリンピックで日本選手が活躍し、多くのメダルを獲得しました。また、ドジャースの大谷翔平選手がメジャーリーグ初の50本塁打・50盗塁を達成し、チームをワールドシリーズ優勝に導くなど大活躍でした。日本のプロ野球では、セリーグ3位からの下克上でベ이스ターズが26年ぶりに日本一になりました。

▼そんな2024年でしたが、私たち東京の会は、献血並行ドナー登録や普及啓発を中心に、着実に活動を進めました。新たな仲間も増えてきており、活動の幅も広がってきています。本年も皆さんの活動への参加とご協力をよろしくお願いします。

▼2025年が混沌から希望に向かう年でありますように。そして皆さんが健康で幸せに暮らせる年でありますように。(S)

東京の会 「1月、2月定例会」 のお知らせ

1月25日(土) ※第4土曜日、2月15日(土) 17時30分より

定例会は、現地会議室集合以外に、オンライン(Zoom)での参加も可能です。

会場：こくみん共済coop東京会館
(旧：全労済東京会館) 3階会議室
※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)
※地下鉄丸の内線新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※3月定例会予定・3月15日(土) 17時30分より

ボランティアの運動にも資金が必要です。東京の会に活動資金のカンパを！

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900)／〇一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 骨髄バンクを支援する東京の会